

# 最近の道路管理に関する話題について

九州地方整備局 道路部 道路管理課  
課長補佐 清原 洋二

1. 九州地方整備局の道路管理
2. 道路災害への対応
3. 最近の道路管理に関する話題等

(維持)

## 〈巡回〉



原則 1～3日に1回実施

### ＜清掃（路面）＞



年間 1~12回実施

### ・<清掃(排水施設)>



年間 1回程度実施

### 〈剪定〉



1～3年に1回程度実施

### 〈除草〉



視認性が確保できない箇所を実施

- <除雪> -



降雪状況に応じて適宜実施

## (修繕)

＜道路構造物の点検＞



橋梁定期点検



附属物点検(道路照明)

＜道路構造物(トンネル・橋梁等)の老朽化対策＞

トンネル修繕



ひび割れ注入による補修

橋梁修繕



炭素繊維シートによる補修

＜舗装修繕＞



切削オーバーレイによる補修

＜附属物修繕＞



標識の更新

＜防災対策(斜面・盛土等)や耐震対策＞



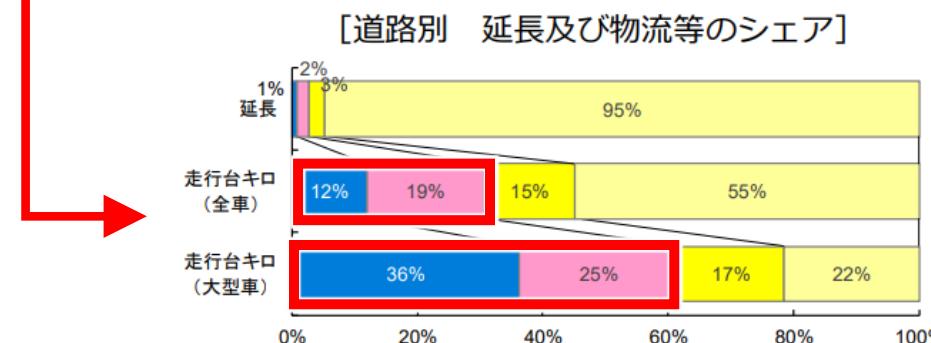
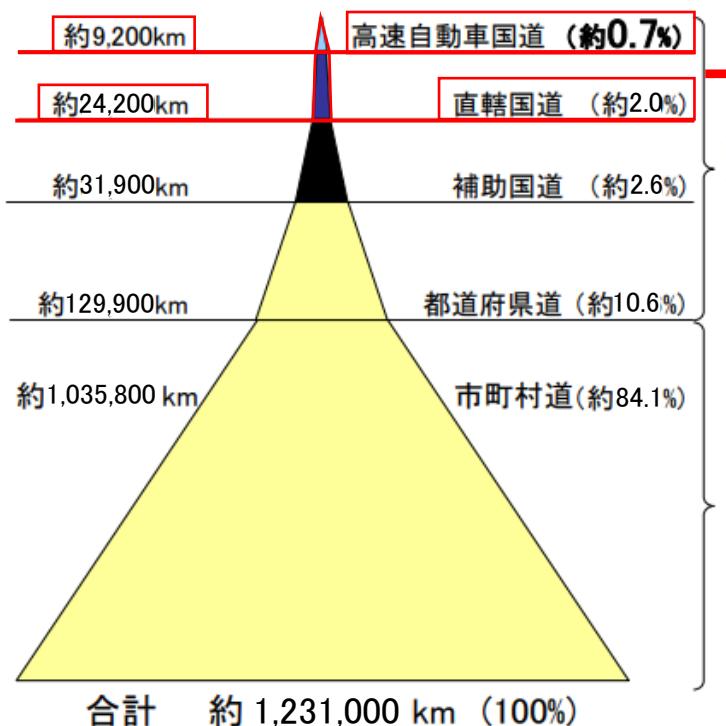
橋梁の耐震補強



斜面崩落防止対策

- 道路は、人や地域を相互につなぎ、人・モノ・情報の移動を支援する機能をもっており、日本には、約123万kmの道路と道路を形成する道路施設(橋梁等)が存在。
- 高速自動車国道と直轄国道は、道路延長割合が低いですが、全交通量の約3割を分担しており、**国民の暮らしや経済を支える重要な路線**である。

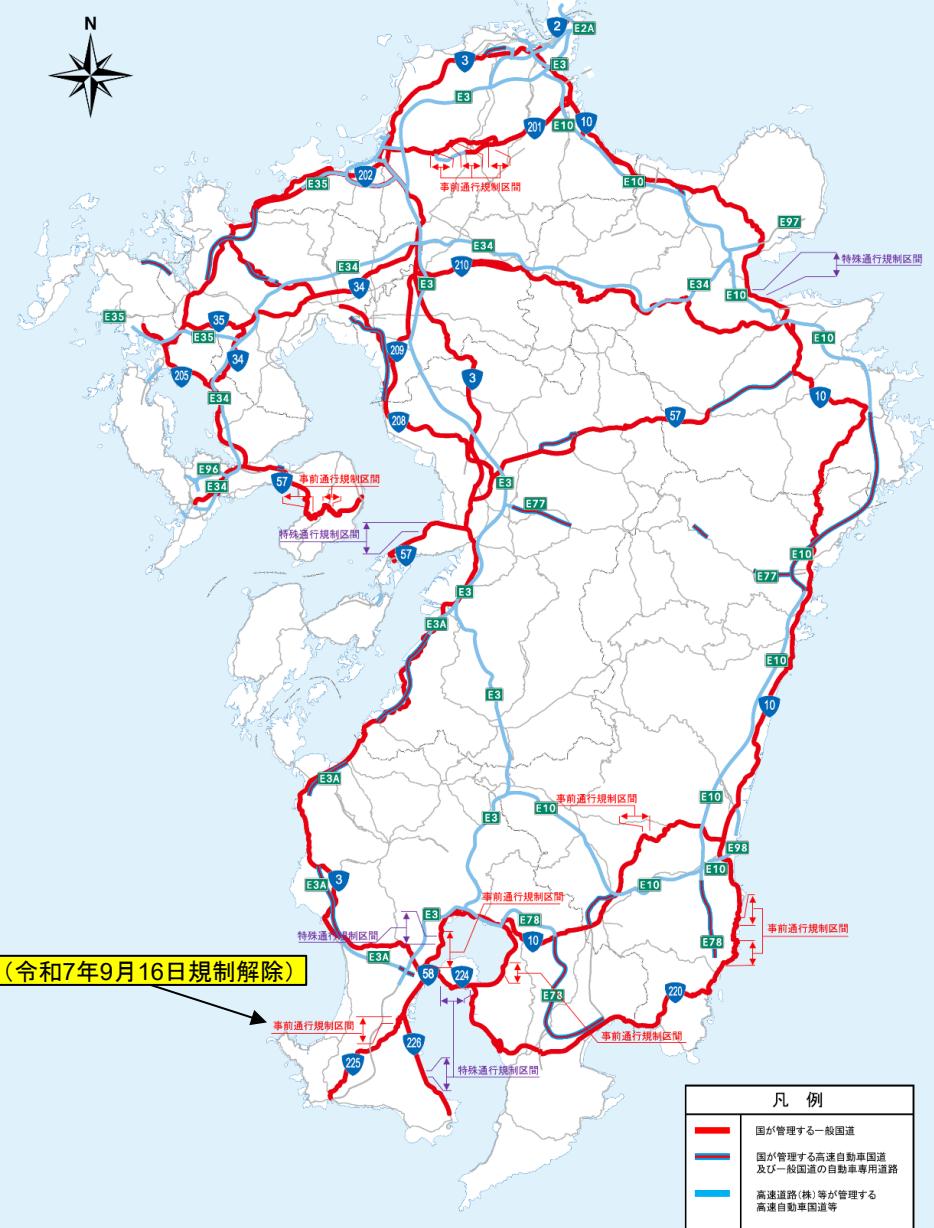
## [日本の道路種別と延長割合]



※走行台キロは、「令和3年度全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査」「自動車燃料消費量調査(令和3年度分)」による

高速自動車国道：令和7年4月1日時点、その他：道路統計年報2024より (R5.3.31現在)

## 九州地方整備局が管理する国道



令和7年4月1日現在

※施設数については概数

◆直轄管理延長 約2,388 km  
うち**自専道** 約390 km

※全国の直轄管理延長 約23,500 km

◆橋梁 約4,500橋

◆トンネル 約160箇所

### ◆道路照明施設 約58,000基

◆道路情報板 約890基

#### ◆事前通行規制区間 10箇所

※ 1区間解除 (R7年度)

## ◆特殊通行規制区間 5箇所

### 〈組織構成〉

※改築事務所及び改築出張所を含む

## ◆事務所数 14事務所

## ◆出張所數 31出張所

◆ 九州技術事務所

#### ◆九州道路メンテナンスセンター

◆高規格道路管理センター

高度経済成長期以降に整備された道路橋、トンネル、河川、上下水道、港湾等について、建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に高くなります。

※施設の老朽化の状況は、建設年度で一律に決まるのではなく、立地環境や維持管理の状況等によって異なるが、ここでは便宜的に建設後50年で整理。

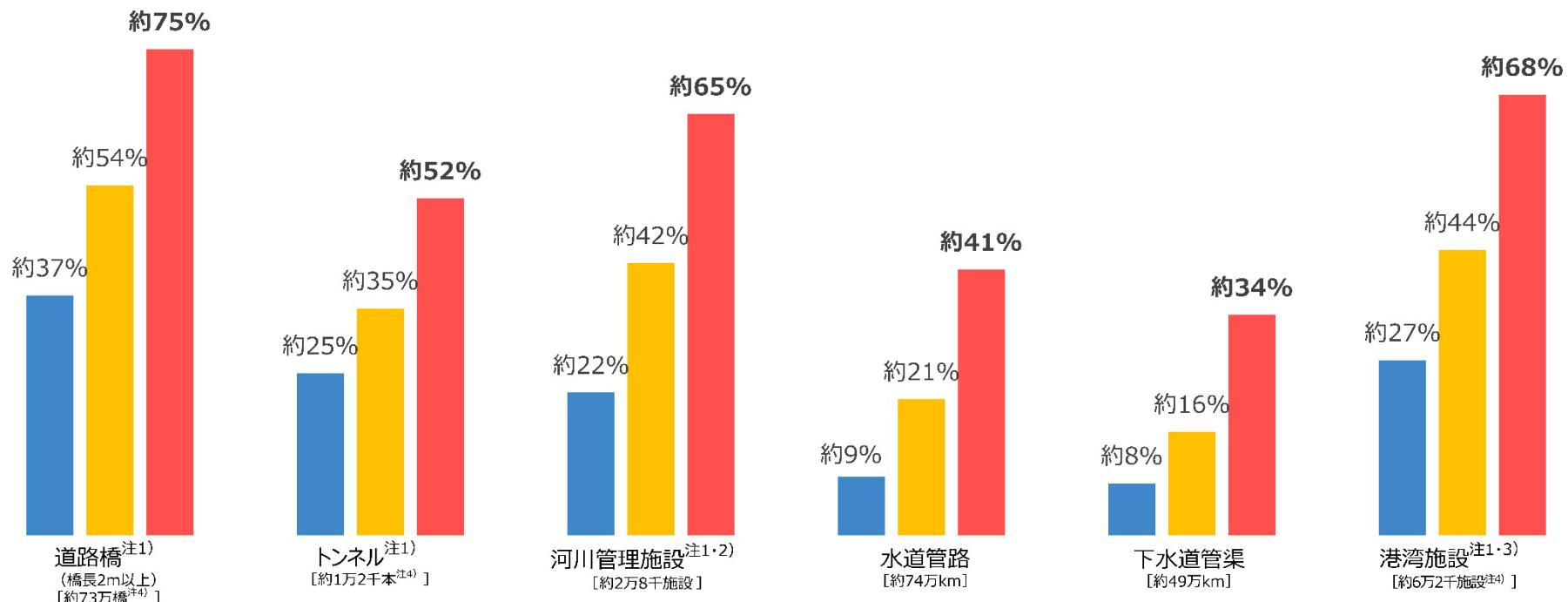
【建設後50年以上経過する社会資本の割合】(2023年3月時点)

[ ] : 各施設の総数 (総延長)

■ 2023年3月

■ 2030年3月

■ 2040年3月



注1) 建設後50年以上経過する施設の割合については、建設年度不明の施設数を除いて算出。

注2) 国:堰、床止め、閘門、水門、揚水機場、排水機場、涵門、樋管、陸閘、管理橋、浄化施設、その他(立坑、遊水池)、ダム。独立行政法人水資源機構法に規定する特定施設を含む。  
都道府県・政令市:堰(ゲート有り)、閘門、水門、涵門、樋管、陸閘等ゲートを有する施設及び揚水機場、排水機場、ダム。

注3) 一部事務組合、港務局を含む。

注4) 総数には、建設年度不明の施設数を含む。

## 令和 7 年度 道路維持管理計画

令和 7 年 5 月  
九州地方整備局

(担当窓口：道路部道路管理課)

### I 基本方針

1. 道路維持管理の現状
2. 今後の道路維持管理の課題
3. 令和 7 年度以降の道路維持管理
4. 九州地方整備局管内の道路施設

### II 令和 7 年度の実施方針

1. 道路維持管理の目的
2. 適用の範囲
3. 道路巡回
4. 道路清掃
5. 除草
6. 剪定
7. 除雪
8. 施設点検
9. 照明施設の維持
10. 構造物点検
11. 橋梁補修・耐震補強
12. トンネル補修
13. 補装補修
14. 防災対策
15. 直轄高速道路の維持管理
16. ICT・AI 等の新技術活用
17. その他（情報ツールの紹介）

## ▼基本方針

九州地方の地域条件（気候、地形など）を踏まえながら、安全・安心な道路環境の確保を最優先に実施するとともに、地域からの意見等の把握や維持管理に関するデータの収集・分析を行い、更には、ICT・AI等の新技術を活用することで、より効率的な維持管理を目指す。

- 計画的な維持管理により高齢化する道路構造物の長寿命化及び法面等の防災対策を実施する
- 地域状況に応じた維持管理計画を設定する
- 執行管理体制のあり方  
→PDCAサイクルで効率の検証、計画の見直し等の業務改善を行う
- 専門委員会等の活用  
→道路管理技術向上検討会等を活用し、各県道路メンテナンス会議等によりPDCAサイクルの支援を行う

- 道路利用者からの通報、相談等に対し24時間体制で受け付けるため「道の相談室」「道路緊急ダイヤル」などを設置。
- 国民の声をワンストップで聞き速やかな対応を行うとともに、道路行政施策に反映させていくことを目指している。



1. 九州地方整備局の道路管理
2. 道路災害への対応
3. 最近の道路管理に関する話題等

- 九州地方は、有明海沿岸の軟弱地盤や北西部の地滑り地帯、南部にはシラスの特殊土壌が広く分布し、また火山や活断層が点在。



北松型(長崎県西部)の地すべり



雲仙岳



シラス台地の地すべり



熊本地震 布田川断層

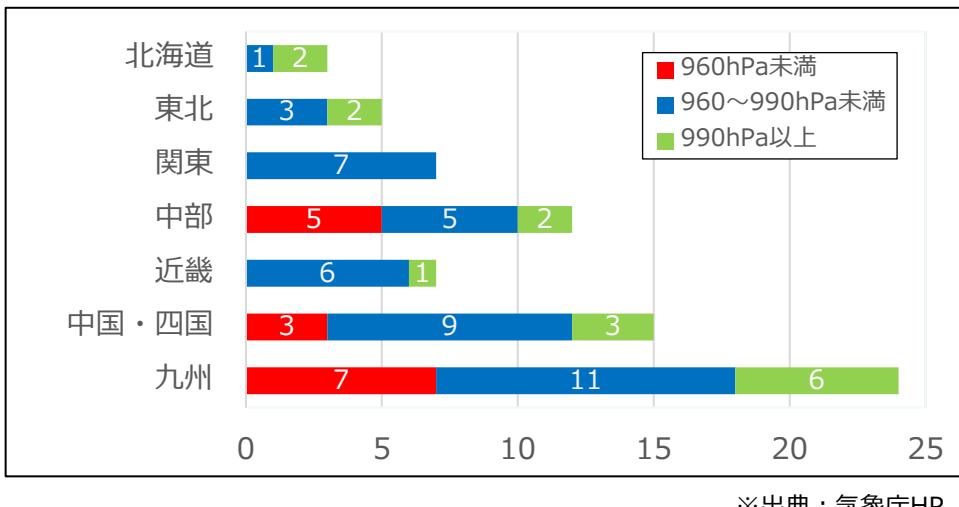


宮崎層群の地すべり



桜島の火山

## ■ 地域別台風上陸回数 (H13.01～R07.11)



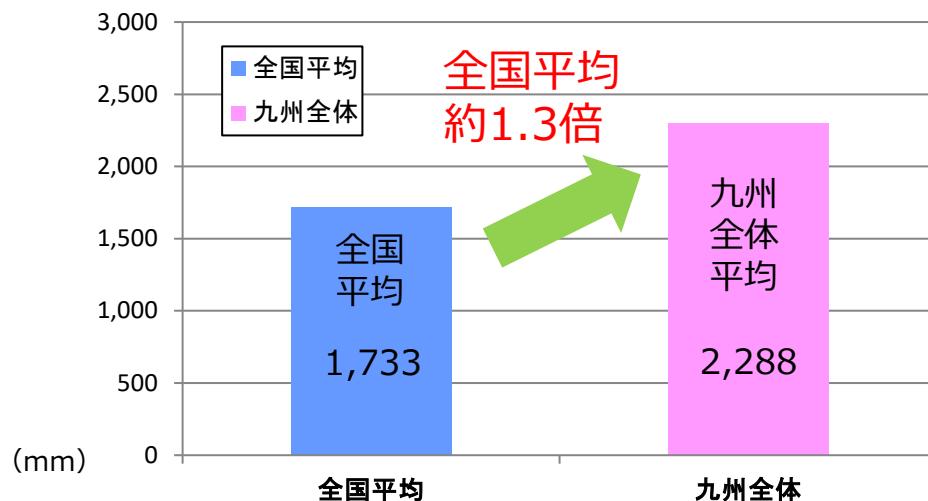
## ■ 活発な火山活動

九州地方における噴火警戒レベル2以上の火山  
〔令和7年1月14日現在〕

- さくらじま  
桜島 【レベル3(入山規制)】
- きりしまやましんもえだけ
- 霧島山(新燃岳) 【レベル2(火口周辺規制)】
- すわのせじま
- 諏訪之瀬島 【レベル2(火口周辺規制)】
- さつまいおうじま
- 薩摩硫黄島 【レベル2(火口周辺規制)】

※出典：気象庁HP   ※参考   レベル5 (避難)  
レベル4 (避難準備)  
レベル3 (入山規制)  
レベル2 (火口周辺規制)

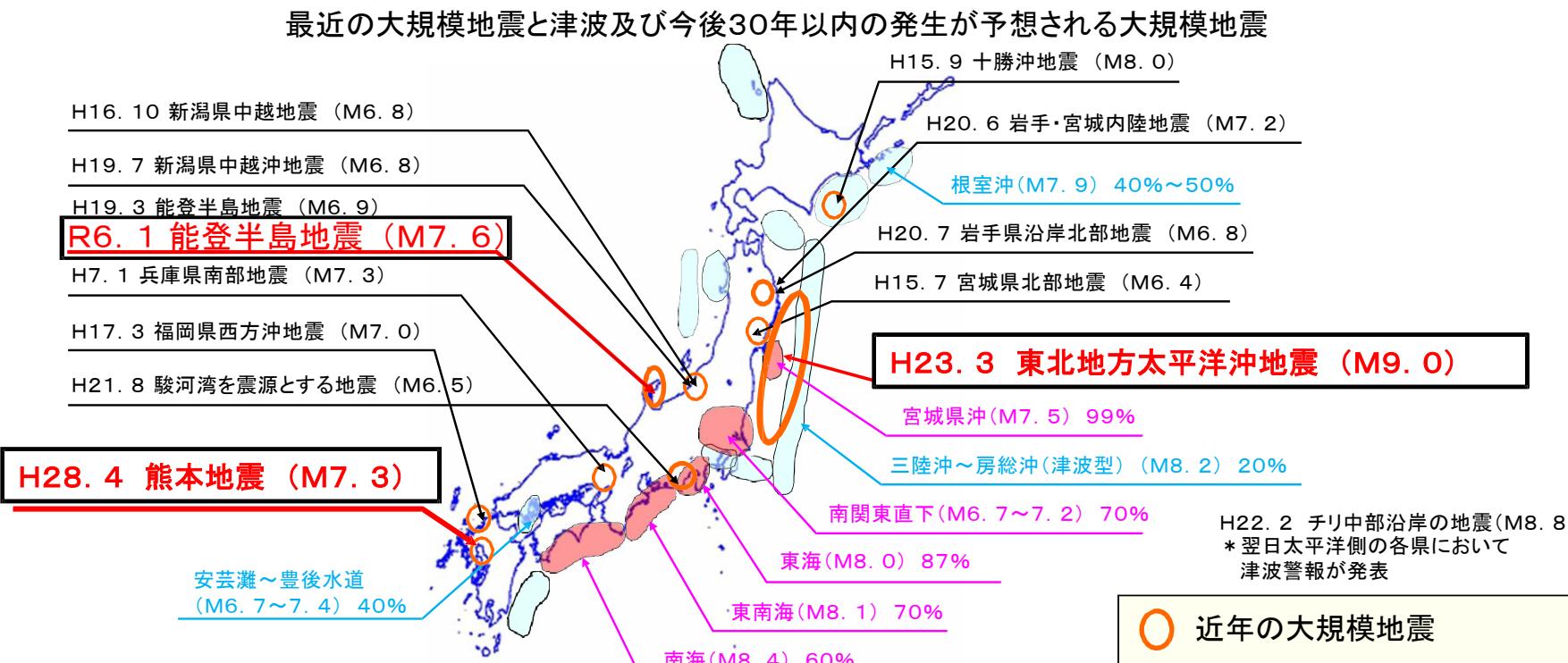
## ■ 降水量 (年平均降水量)



▲桜島噴火 2020年8月9日 気象庁撮影

■日本は、大地震(マグニチュード6.0以上)の発生回数が全世界の約2割を占めており世界でも有数の地震常襲国。

近年は、H23.3東北地方太平洋沖地震、H28.4熊本地震、R6.1能登半島地震が発生



出典 : ・近年の大規模地震については、気象庁発表値  
・今後30年以内の大規模地震の発生確率・規模については、  
地震調査研究推進本部発表資料(2011年1月11日現在)に加筆

- 近年の大規模地震
- 30年以内の大規模地震  
(特に発生確率の高いもの)
- 30年以内の大規模地震

# カムチャツカ半島沖の地震による被災状況

- 主な幹線道路（高速、有料、直轄）の被災による通行止めはなかったものの、事前規制等による通行止めは全国で28路線97区間に及んだ。
- 直轄国道の津波浸水範囲については、道路情報板において津波情報を表示し、道路利用者へ情報提供を図った。



四国地整【道路情報板表示状況】  
松山道（愛媛県宇和島市）



九州地整【道路情報板表示状況】  
国道10号（宮崎県延岡市）



中国地整【道路情報板表示状況】  
国道2号（岡山県岡山市）



北海道開発局【道路情報板表示状況】  
国道336号（北海道広尾郡広尾町）

東北地整【道路情報板表示状況】  
国道45号（宮城県塩竈市）



関東地整【通行止め実施状況】  
国道6号（茨城県日立市）

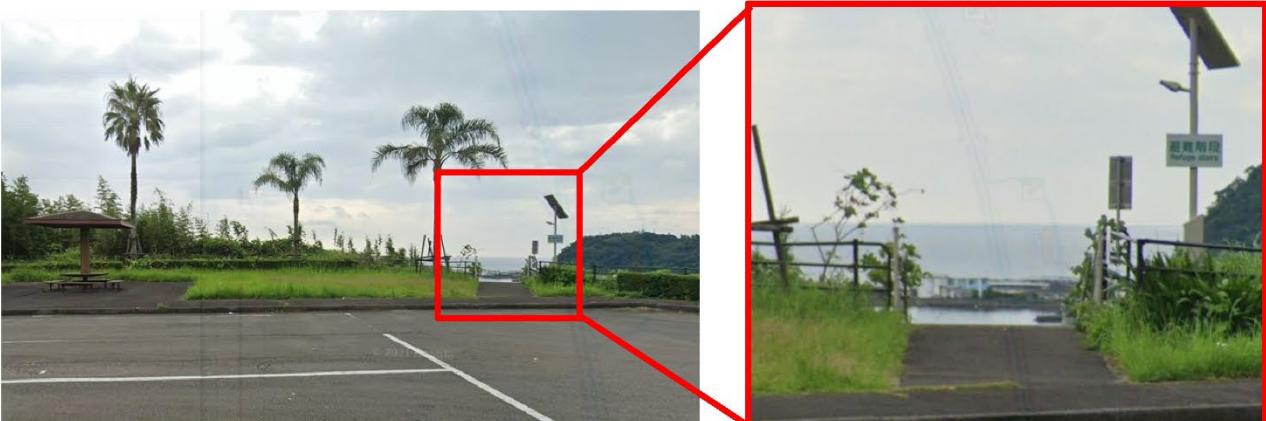


近畿地整【道路情報板表示状況】  
国道24号（和歌山県岩出市）



## ■緊急避難路の活用状況

- ・緊急避難場所 18箇所整備済(直轄)
- ・国道220号 青島パーキングの避難階段を利用して15名が避難。



国道220号 青島パーキング (宮崎市折生迫 避難階段 15名活用)



避難階段



避難時の状況  
(NHK宮崎放送局)

# 6月20日からの大雨による被災(国道226号 鹿児島市喜入)

きいれ  
6/21 5:30頃に鹿児島県鹿児島市喜入にて、斜面崩壊による土砂流入が発生。車両2台が巻き込まれる。人的被害はなし。6/21 5:30～6/22 3:00全面通行止め。

## 【時系列】

6/21 05:30 土砂流入発生 (物損車両2台) 規制開始  
6/21 08:00 JR立会  
6/21 10:30 応急復旧工事着手  
(土砂撤去・大型土嚢201袋、側溝清掃等)  
6/22 03:00 通行止め解除

## 降雨状況



## 応急復旧作業①



## 応急復旧作業②



## 位置図



## 被災状況①



## 被災状況②



## 現況



- 鹿児島市喜入の被災では、国道226号に並行するJR指宿枕崎線も被災。
- 被災後速やかにJRと現地立会を行い、早期解放に向け、連携して土砂撤去を実施。



## 【連携事項】

- ・テックドクターの現地調査を鹿国とJRと合同で実施し、国道、JRに対して対策の助言を受ける
- ・JR上の崩落部分の地権者調査を鹿国にて、鹿児島市と協力して実施（調査結果はJRに提供）
- ・崩落頂部の地権者2名に、鹿国が果樹木(数十本)の伐採とブルーシート養生について了解を得る
- ・鹿国で、頂部の対策実施(伐採した果樹木の補償は今後鹿国で実施)
- ・線路部の土砂撤去はJRが実施するが、JRの復旧を支援するためJR下の国道側に落とし、その土砂は国道側で他の土砂と一緒に撤去することで調整

後日、JR九州工務部工事課長より連携についてお礼

○発生日時：令和7年8月8日(金) 7時16分発生確認

○24時間連続雨量：454mm、時間最大雨量：91mm/h

○被災・被害：物損 被害なし、人身 なし

○被害規模：延長約30m、路肩崩壊約70m<sup>3</sup>

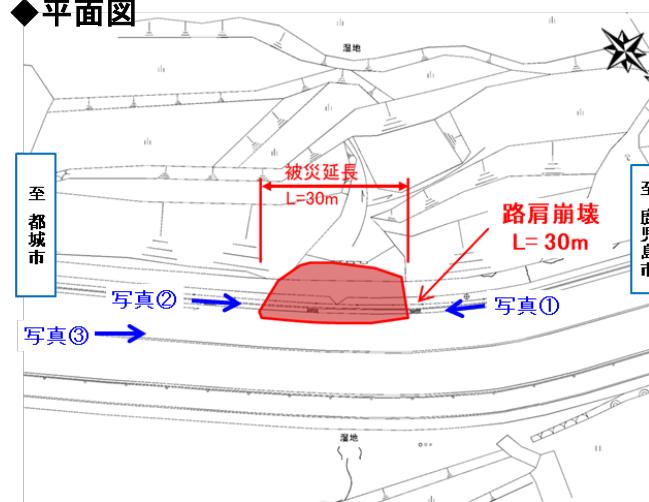
○応急復旧：大型土のう 150袋設置、単粒度碎石投入 等

令和7年8月8日(金) 7時45分全面通行止め開始 → 8月13日(水) 10時00分全面通行止め解除

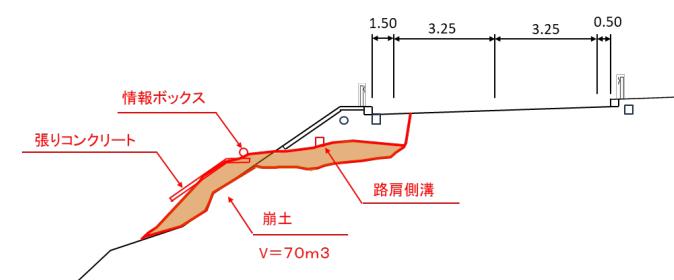
## ◆位置図



## ◆平面図



## ◆断面図



写真①(被災直後)



至 都城市

至 鹿児島市

写真②(被災直後)



至 鹿児島市

至 都城市

写真③(応急復旧完了)



至 鹿児島市

至 都城市

# 8月7日からの大雨災害 国道10号 網掛橋

○発生日時：令和7年8月8日(金) 8時15分発生・全面通行止め

○24時間連続雨量:455mm、時間最大雨量:91mm/h

○被災・被害：物損 被害なし、人身 なし

○被害規模：延長約100m

○応急復旧：大型土のう・袋詰玉石設置(A1橋台背面吸出し部、P1橋脚洗掘部)、碎石投入(A1橋台背面吸出し部)  
令和7年8月8日(金) 8時15分全面通行止め開始

## ◆位置図



## ◆平面図



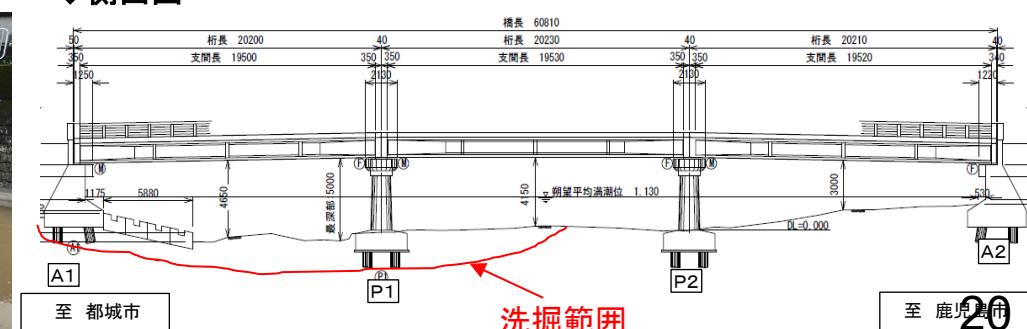
## ◆写真①(A1橋台上流側吸出し部)



## ◆写真②(A1橋台下流側護岸損傷)



## ◆側面図



# 8月7日からの大雨災害 国道10号 鹿児島県姶良市加治木町日本山

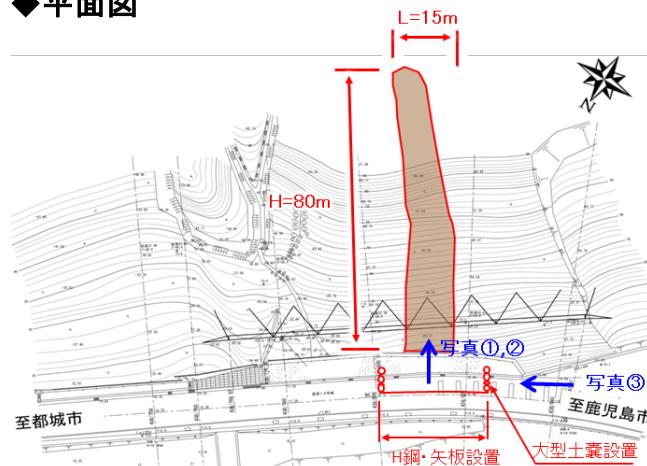
九州地方整備局  
Kushu Regional Development Bureau

- 発生日時: 令和7年8月8日(金) 5時40分発生・全面通行止め開始
- 24時間連続雨量: 437mm、時間最大雨量: 91m/h
- 被災・被害: 物損 被害なし、人身なし
- 被害規模: 延長約15m、高さ約80m、土砂流入約60m<sup>3</sup>
- 応急復旧: 大型土のう設置、仮設防護柵設置 等
- 令和7年8月13日(水) 10時00分 片側交互通行へ移行

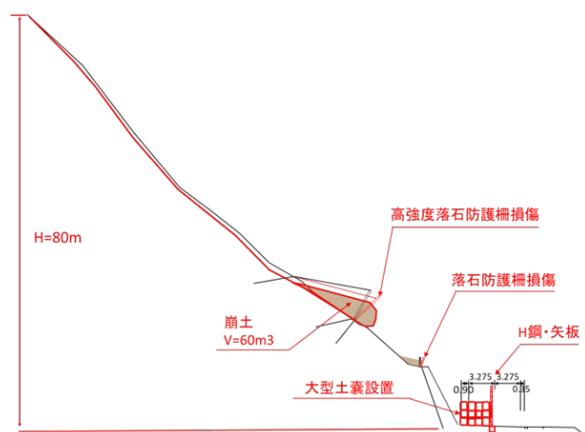
## ◆位置図



## ◆平面図



## ◆断面図



写真①(被災直後)



写真②(被災直後)



写真③(応急復旧完了)



## ○代替路の指定方法（告示第5号）

災害により主要一般道が被災し、迂回路として高速道路を利用せざるを得ない場合に、被災した道路管理者の要請を受け、会社が区間と時間を定めて実施（全車両が無料）

○日時：8月11日（月）19:00～

## ○代替指定路のうち無料措置区間

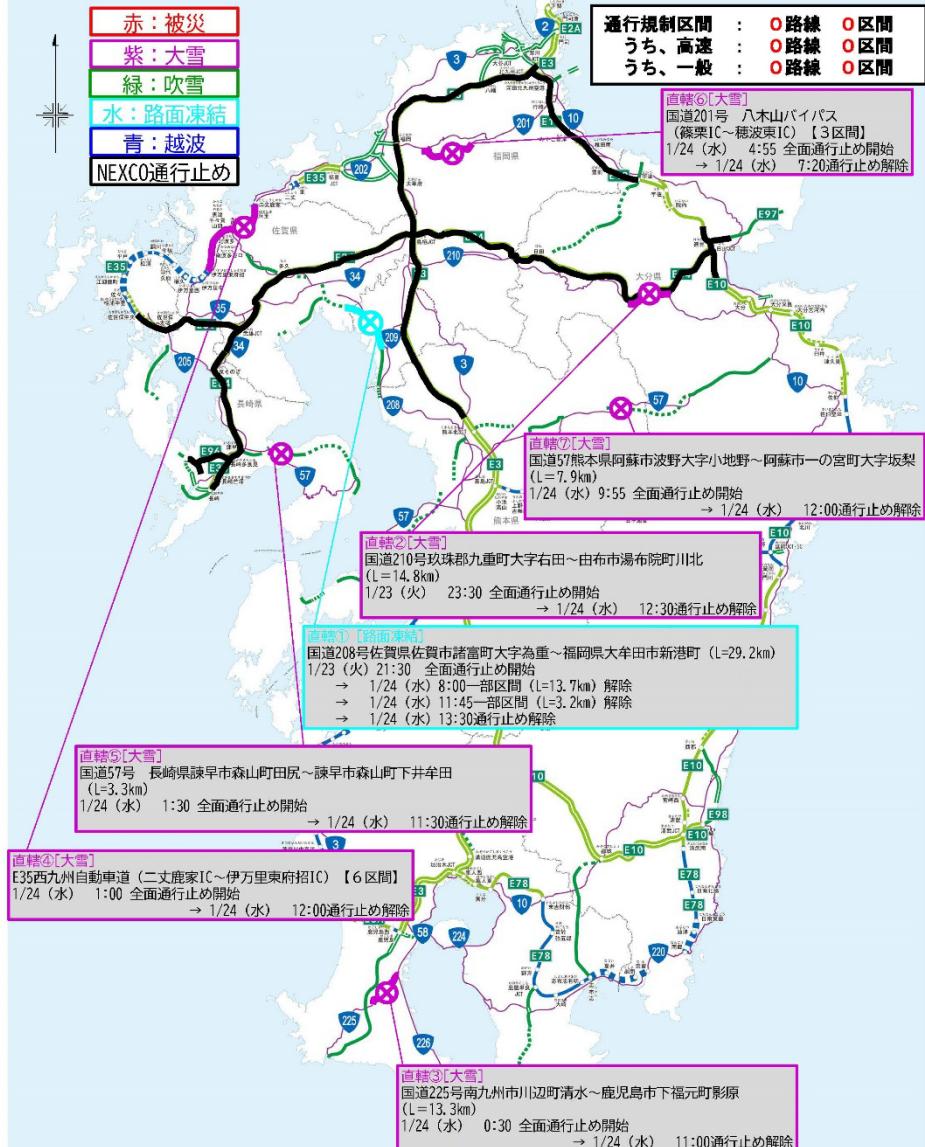
東九州自動車道（隼人道路） 隼人東IC～（隼人西IC）～加治木IC間



高速道路 黒色の区間を通行止め

直轄国道 大雪・路面凍結で6路線を通行止め

令和6年1月大雪（九州）直轄規制区間 令和6年1月24日 13時30分時点



## 通行止め直前の状況

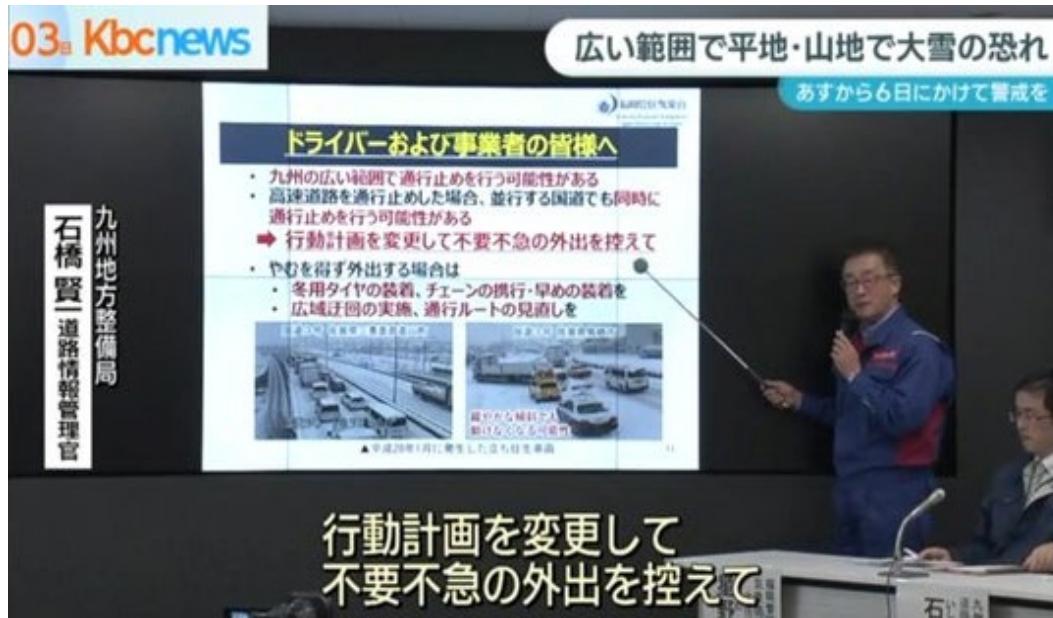


福岡県飯塚市舎利蔵 穂波西 IC オンランプ  
国道201号八木山BP 福岡県飯塚市 1/24 4:30



阿蘇市一の宮町 滝室14  
国道57号滝室坂 熊本県阿蘇市 1/24 09:11

## ■マスメディアを活用した呼びかけ



◀2月3日マスコミ向けに福岡管区気象台と合同で「気象説明会」を開催。過去の大雪時の事例を示し、不要不急の外出を控える等を呼びかけ



2月5日 KBC九州朝日放送「アサデス。」及びRKB毎日放送「タダイマ！」で整備局防災室より生中継（通行止め情報や行動計画の変更、不要不急の外出を控える等を呼びかけ）▶

2/3 11:00 大雪に関する緊急発表を実施  
14:00 マスコミ向けに気象説明を実施

令和7年2月3日  
九州地方整備局  
九州運輸局  
福岡管区気象台  
NEXCO西日本九州支社

### 大雪に関する緊急発表

~不要不急の外出はお控えください~

○九州地方では、2月4日から強い寒気が流れ込み、断続的に雪が降り、雪が同じ所で降り続いた場合は警報級の大雪となる可能性があります。平地でも10cm以上の降雪となるおそれがあります。【別紙-1】

○最新の気象情報及び道路交通情報をご確認ください。【別紙-2】

○九州の広い範囲において、高速道路や主要幹線道路の通行止めを行う場合があります。直轄国道では、集中的・効率的に除雪を行うため、通行止めを実施する場合があります。

○積雪の状況によっては、高速道路及びそれに並行する国道を同時に通行止めする場合もあります。

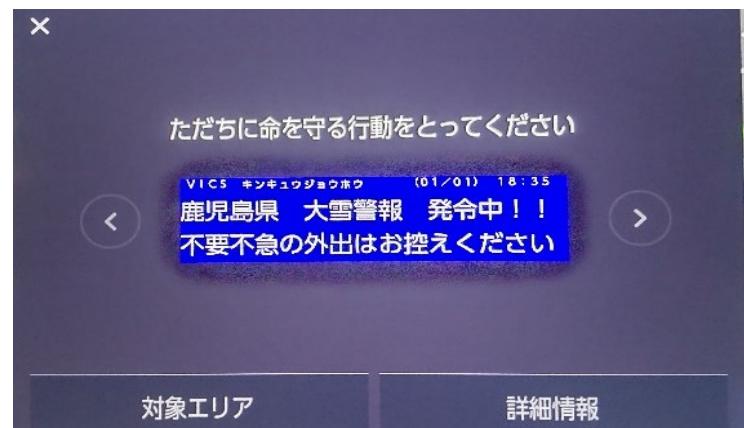
○大雪の場合は、テレワークの活用などを含め不要不急の外出を控えてください。やむを得ずお出かけをする際は、冬用タイヤの装着、チェーンの携行及び早めの装着の徹底等をお願いします。ノーマルタイヤでの冬道走行は罰則対象となります。

○過去の大雪の際には、大型車の立ち往生が主な原因となり、甚大な影響が生じています。運送事業者は、大雪時等輸送の安全の確保に支障を生ずるおそれがあるときは、事業用自動車に冬用タイヤが装着されていることの確認等、安全を確保するために必要な措置を講じることが必要です。なお、雪道において悪質な立ち往生が発生した場合には、監査で事実関係を確認したうえで、講じた措置が不十分と判断されれば、行政処分の対象となります。適切な運行管理を行いうようお願いします。

○公共交通機関においても、大規模かつ長時間にわたる遅延や運休が発生する場合があります。交通事業者の発表する情報、テレビ・ラジオ等の報道による情報の他、「九州のりもの info.com (災害時等公共機関別運行(航)情報システム)」 [<http://www.norimono-info.com/>]により、最新の運行(航)情報を確認のうえ、外出が必要な場合は十分な時間的余裕を持って行動頂くようお願いします。



▲Xに除雪作業状況を投稿  
[有明海沿岸国道事務所の例]



▲ 2/4大雪警報発表後、カーナビに注意喚起をポップアップ表示

1. 九州地方整備局の道路管理
2. 道路災害への対応
3. 最近の道路管理に関する話題等

令和3年度、東北地整管内で地方自治体が占用申請をした下水道工事について、補正の継続により当該下水道の占用手続きに長期間を要し、結果として地方自治体による下水道工事契約を解除せざるを得なくなった事案が発生した。

地方自治体と工事業者間での工事契約解除の結果、地方自治体は工事業者へ損害賠償を行うことになった。

→補正指示を繰り返した道路管理者側においても反省すべき点ありとされた。

\* 関連記事

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00142/01244/>

申請者の知識や申請能力を把握し  
相手方に寄り添う形で補正指導を行うこと。

## 留意点

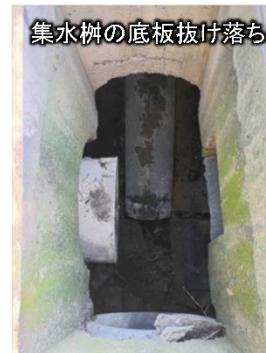
- 申請前には十分な事前相談の機会を設け、制度をよく理解させたうえで申請書類の作成を行わせるよう留意すること。
- 補正指導を通じて、申請者の能力を把握し丁寧な指導を行うこと。
- 窓口である出張所と事務所の連携を密にし、同様な事案の共有、審査の体制を充実させること。

補正期間は標準処理期間から除外されるものではあるが、指導結果が適正に反映されず、結果的に補正指導が繰り返されることで、審査において不測の期間を要するこがないように注意。

審査自体の適正化もさることながら、審査期間が長期化した場合のリスクをヘッジするための仕組みとして、進捗管理表等の有効活用と情報共有化によって、長期化した事案を組織的に気づき、善後策を講じられるように対応。

- 道路下に埋設されている道路施設や上下水道管路などは高度経済成長期に整備されたものが多い。
- 上水道では本年4月に国道1号（京都市）で発生した水道管の漏水事故を受け、緊急輸送道路に埋設されている鋳鉄管を令和12年度までに更新する計画。（緊急輸送道路以外は令和17年度まで）
- 今後、老朽化した地下施設の更新工事が行われることで、路上工事の増加による交通への影響が懸念。

## ■ 道路排水施設の損傷



## ■ 共同溝の経過年数別延長

直轄国道の共同溝の経過年数別延長(全体延長:約480km)					
50年 以上	50年 以内	40年 以内	30年 以内	20年 以内	10年 以内
約41km	約69km	約63km	約125km	約161km	約24km



## ■ 下水道管路の管理延長の推移



※下水道等に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた  
対策検討委員会 第1回資料より

## ■ 水道管路の管理延長の推移



※下水道等に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた  
対策検討委員会 第4回資料より

- 令和7年1月28日、下水管路の破損に起因する道路陥没に走行中の運転手が巻き込まれ死亡する事故が発生し、一時、120万人の住民に下水道使用自粛を要請。復旧には数年を要すとされ、周辺の道路では現在も通行規制が行われている。

発生日時：令和7年1月28日（火）午前10時頃

発生場所：八潮市中央一丁目地内 県道松戸草加線（中央一丁目交差点内）

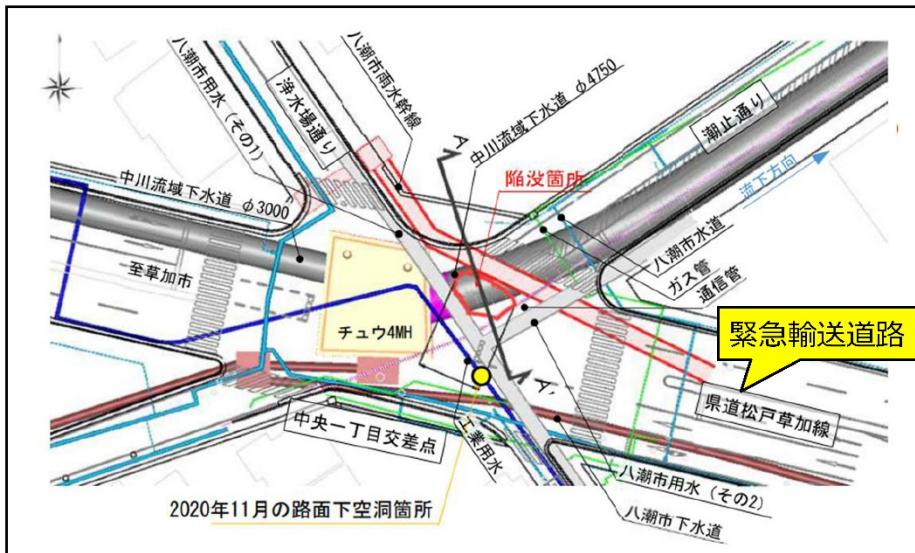
陥没規模：幅約40メートル、深さ最大約15メートル

事故原因：流域下水管の破損に起因

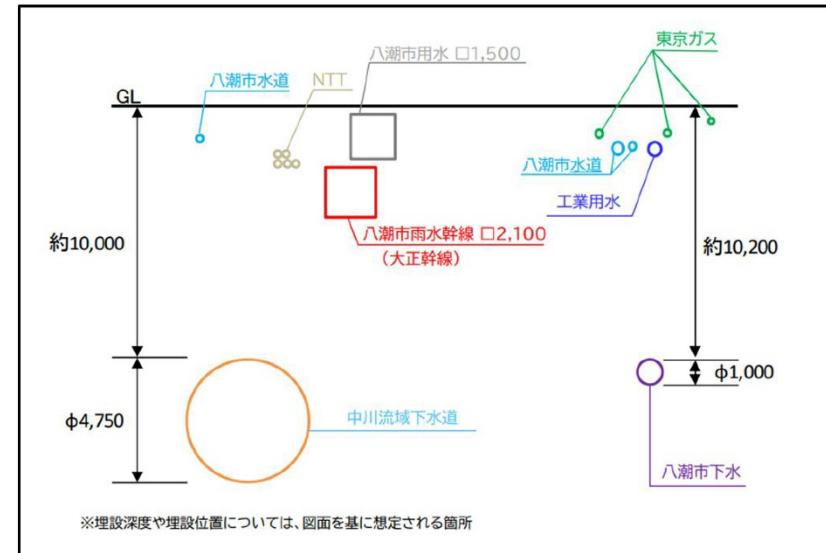
下水管：管径4.75m、昭和58年整備（経過年数42年）



## ■陥没箇所の地下埋設物の状況（平面図）



## ■陥没箇所の地下埋設物の状況（断面図）



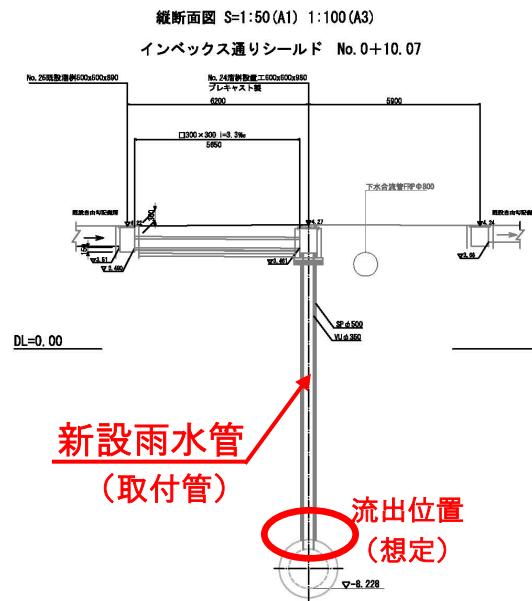
※埼玉県「八潮市で発生した道路陥没事故に関する原因究明委員会」第3回資料に加筆

※埼玉県「流域下水管の破損に起因する道路陥没事故に関する復旧工法検討委員会」第1回資料より

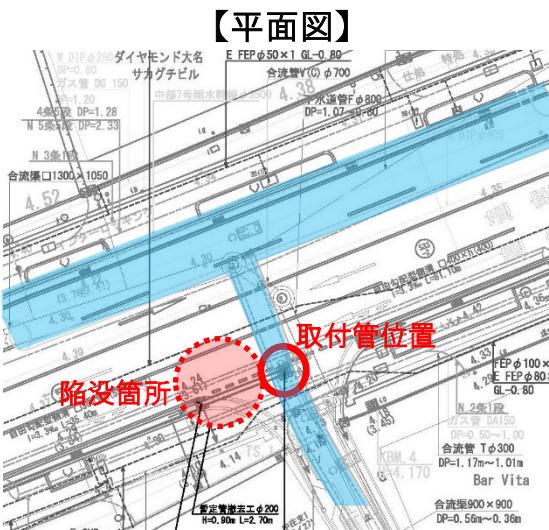
# 福岡県福岡市での下水道工事に起因した道路陥没

- 発生日：令和7年6月10日（火）
- 発生場所：福岡県福岡市中央区今泉2丁目（国道202号線 ※直轄管理）
- 工事概要：雨水管の新設工事
- 陥没内容：道路陥没（国道202号の歩道及び車道の一部）  
(原因については調査中)  
※敷設中の新しい雨水管の隙間から土砂が流出した可能性あり
- 第三者損害：なし
- 報道：あり（NHK、TNC他）
- 交通規制：6/10(火) 午前10:43 規制開始（全面通行止め）  
6/11(水) 午前 6:53 規制解除
- 復旧方法：路面下空洞調査、陥没部には流動化処理土を活用し復旧

## 【施工状況図】



## 【位置図】

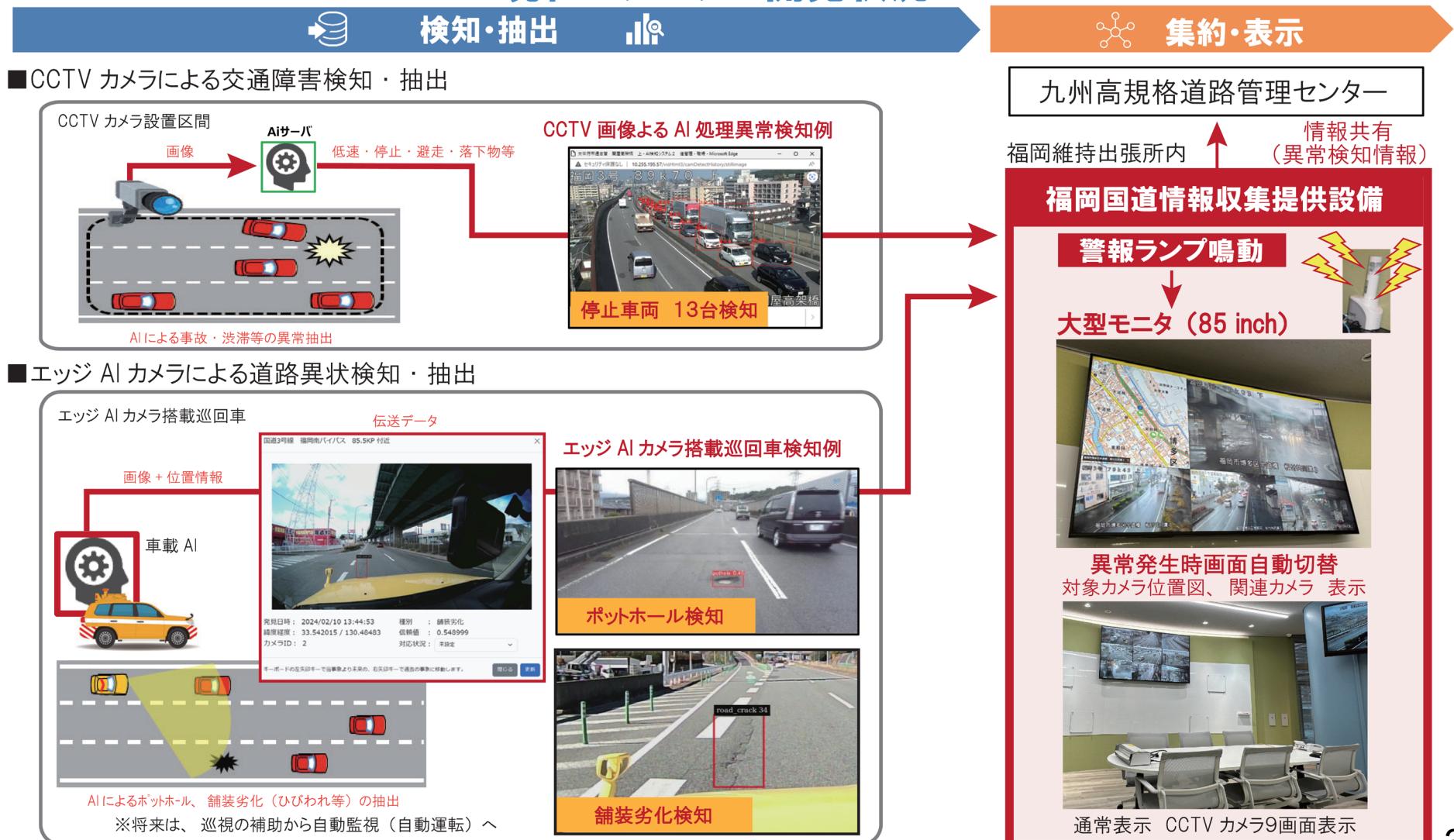


## 【陥没状況写真 (R7.6.10)】



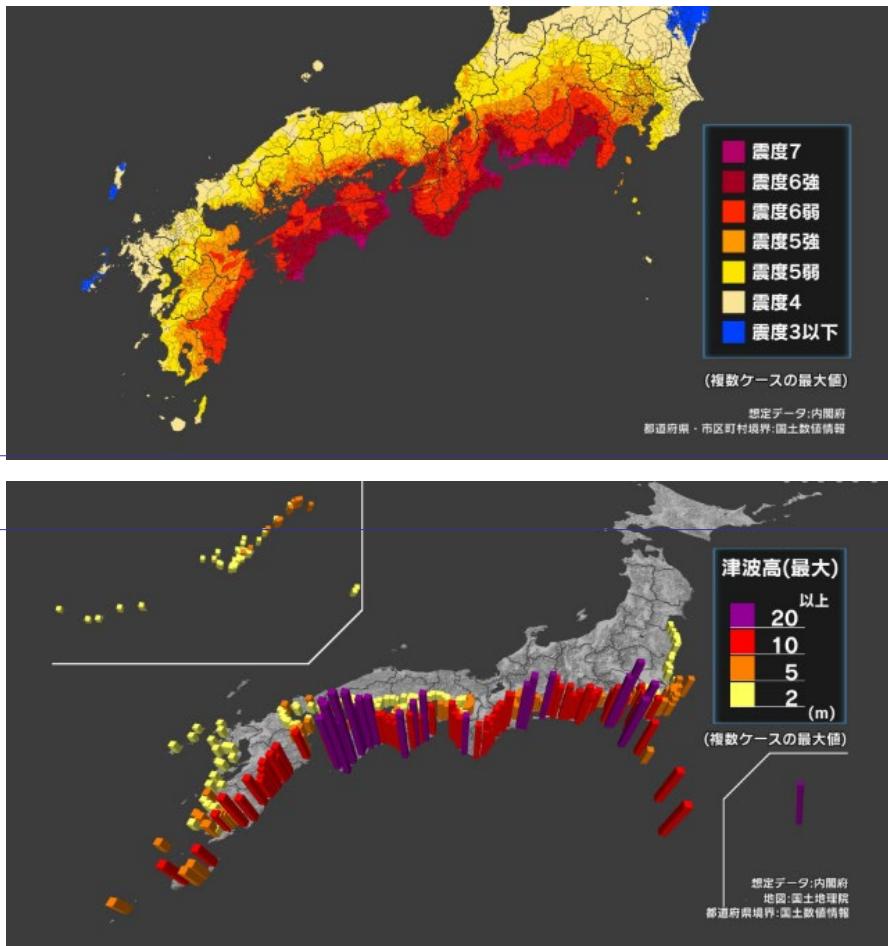
- 福岡国道事務所では、さまざまな道路・交通障害を自動検知するためAI等を活用したシステム開発を行っている。
- モデルとして福岡維持出張所(DX出張所)で実施中。

## 現在のシステム開発状況



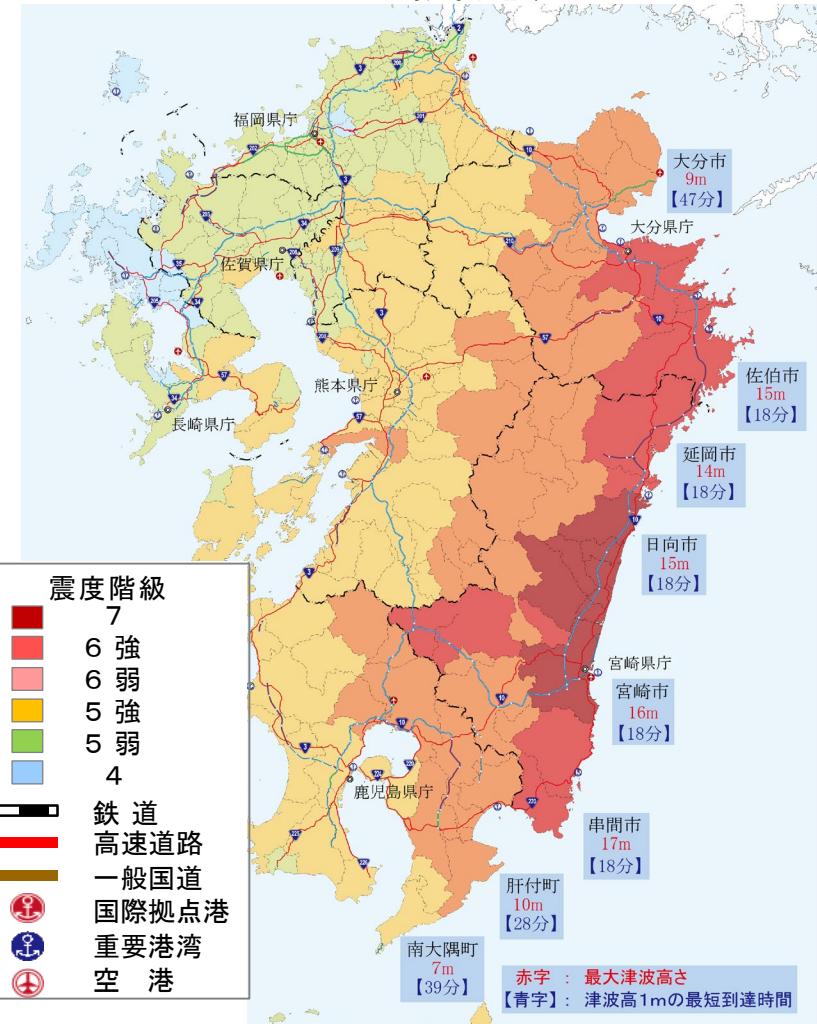
- 震度6以上の強い揺れが九州全市町村の25%（宮崎県100%、大分県83%、鹿児島県33%）
- 想定されている津波は、鹿児島県串間市の最大高さ17mをはじめ東沿岸地域では10m越が広範囲にわたり到達する

## ▼南海トラフ巨大地震時の被害想定(地震・津波)



出典:NHK

## ▼九州の被害想定



# 九州道路啓開計画(九州東進作戦)の概要

## ～検討経緯～

- ・南海トラフ地震における道路啓開について関係機関の連携・協力により、強力かつ着実に推進していくことを目的に『九州道路啓開等協議会』を平成27年10月に設置。
- ・協議会は、各道路管理者(九州地方整備局、各県、各政令市、西日本高速道路(株)、福岡北九州高速道路公社)及び各関係機関(九州管区警察局、各県警、九州防衛局、陸上自衛隊西部方面総監部、九州電力(株)、NTT西日本(株)九州事業本部、(株)NTTドコモ九州支社、(一社)JAF九州本部、各県建設業協会)により構成。
- ・平成27年10月の第1回協議会以降、3回の幹事会及び平成28年3月に第2回の協議会を開催し、平成28年3月25日に九州道路啓開計画を策定。

## 計画の概要

### ＜計画の背景・目的＞

- ・九州では南海トラフ地震の発生により九州東側沿岸を中心に津波被災をはじめとする甚大な被害が危惧。

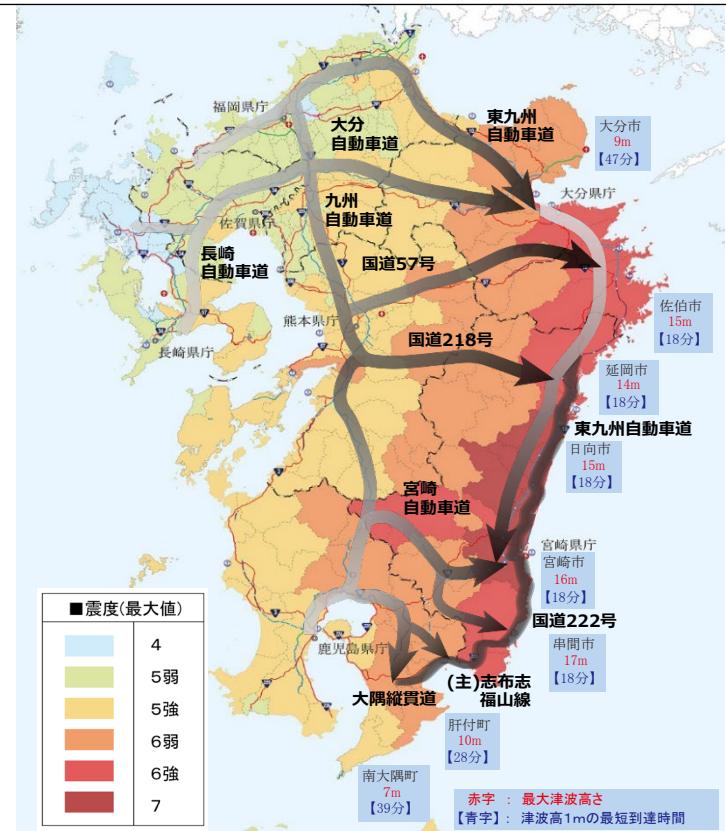
### 「九州道路啓開計画(初版)」

- ・「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」に示された緊急輸送ルートについて、道路啓開調査(緊急点検)、道路啓開作業の実施者及びタイムライン、人員・資機材等の体制構築、被災情報の把握・情報集約等を定め、より実行可能な計画として策定。

### ＜九州東進作戦＞

- ・南海トラフ地震発生の際、九州地方において震度6強以上の震度が観測された場合、又は大津波警報が発表された場合、全国及び九州各地からアクセスが可能となるよう、高速道路、国道、県道等を活用し、九州東側沿岸に向けて一斉に出動し、道路啓開を実施。
- ・各道路管理者、関係機関が連携・協力のもと情報を共有し、緊急輸送ルートを緊急通行車両走行のため、最低1車線を確保することで、より短時間で啓開。
- ・道路啓開がその後の消火活動や救命・救助活動、緊急物資の輸送等を支えることより、人命救助の72時間の壁を意識した具体計画に基づき、タイムラインに応じて、発災後、24時間以内に広域移動ルート、拠点接続ルートの概ねの道路啓開、72時間以内に被災地内ルートの概ねの道路啓開を完了することを目標。

## 九州東進作戦・南海トラフ巨大地震発生時の被害想定〈揺れ・津波〉



### 防災拠点

防災拠点	施設数
広域進出拠点	3箇所: 古賀SA(下り) 他2箇所
進出拠点	9箇所: 霧島SA(下り) 他8箇所
救助活動拠点	13箇所: 福岡空港 他12箇所
航空搬送拠点	9箇所: 福岡空港 他8箇所
広域物資輸送拠点	8箇所: 県産業展示場(グランメッセ熊本) 他7箇所
海上輸送拠点	1箇所: 別府港 他10箇所
製油所・油槽所	20箇所: 東西オイルターミナル北九州油槽所 他19箇所
活動拠点	3箇所: 大分県(県庁及び市町村役場)、宮崎県(県庁及び市町村役場)、鹿児島県(市町村役場)

ご清聴ありがとうございました

---